

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：青少年対策費

事業名 ネット依存対策推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 私学振興・青少年課青少年係 電話番号：058-272-1111 (内 2428)

E-mail：c11151@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,088 千円 (前年度予算額：2,609 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,609	1,852	0	0	0	0	0	0	757
要求額	2,088	1,331	0	0	0	0	0	0	757
決定額	2,088	1,331	0	0	0	0	0	0	757

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

情報化社会が進展し、スマートフォン等が急速に普及したことにより、県内における児童生徒の携帯電話保有率の上昇や、携帯電話等の使用時間の長時間化が顕著になっている。これに伴い、ネット依存傾向のある児童生徒の割合も増加しており、青少年の生活に多大な影響を与えていることから、対策が急務となっている。

(2) 事業内容

○「ネット依存対策研修会」

- ・学校関係者、相談窓口担当者等を対象とした「ネット依存対策」に関する研修会を年3回程度実施し、ネット依存の現状とネット依存傾向のある当事者への支援法等について学ぶ機会を提供することで、日頃の指導や支援に活かす。

日 程：年3回

場 所：県内3か所

対象者：学校関係者、相談窓口担当者等

内 容：専門家による講義、情報交流

○「ネット依存回復支援講座」

- ・当時者及び家族向けの連続講座（3回程度）を実施。自らの生活を見直したり、家族の望ましいかかわり方などを学んだりする講座を通して、ネット依存傾向からの早期回復を図る。

○「ネット依存対策プログラム」

- ・ネット依存傾向のある小・中学生を対象とし、青少年教育施設で自然体験活動や認知行動療法を取り入れた宿泊体験等を実施し、基本的な生活習慣の回復や行動改善を促す。

日 程：9月から11月の6日間

場 所：青少年教育施設（例：岐阜市少年自然の家）

対象者：県内在住でネット依存傾向のある小・中学生のうち、生活習慣や行動の改善を志す児童生徒10名

内 容：講義、自然体験活動、認知行動療法等

（3）県負担・補助率の考え方

ネット依存傾向のある児童生徒に対し、基本的な生活習慣の回復や行動改善のきっかけづくりをすることで、ネット依存に陥ることを防ぐ取組であり、県として必要な負担である。

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	926	講師謝金、学生スタッフ謝金
旅費	233	講師旅費、学生スタッフ旅費、委員旅費、打合せや開閉会式等の業務旅費
消耗品費	100	資料作成用紙代、消耗品
会議費	93	青少年教育施設での食事代
印刷製本料	375	参加者募集チラシ、研修会資料代、報告書代
役務費	108	通信運搬費、傷害保険料
使用料	253	会場使用料、シーツ代
合計	2,088	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

岐阜県青少年健全育成計画

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ネット依存傾向のある児童生徒に対し、自然体験活動や認知行動療法等を通じて、基本的な生活習慣の回復や行動改善のきっかけづくりを行うことにより、ネット依存を回避させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
						%
ネット依存対策研修会 参加人数			150人	180人	200人	%
ネット依存回復支援講座 参加人数			20人	40人 (累積)	60人 (累積)	%
ネット依存対策キャンプ 参加人数			10人	20人 (累積)	30人 (累積)	%

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。 実施なし
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>青少年の携帯電話保有率の上昇に伴い、ネットの依存の可能性が高い児童・生徒等の割合が増加しており、ネット依存対策の取組が必要である。</p> <p>【令和2年度情報モラル調査（岐阜県教育委員会）】</p> <p>◇ネット依存傾向にある生徒の割合 中学生（公立）：17.6%（H30）→ 18.7%（R2） 高校生（公立）：20.3%（H30）→ 25.4%（R2）</p> <p>◇ネット依存の可能性が高い生徒の割合 中学生（公立）：7.4%（H30）→ 9.0%（R2） 高校生（公立）：9.8%（H30）→ 10.6%（R2）</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>ネット依存傾向にある当事者を支援する立場にある方が、支援のあり方に対する理解を深めることができている。</p> <p>ネット依存傾向にある児童生徒が、自分のネットとの関わり方を考え、日常生活を改善するきっかけづくりができている。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>事業検討委員会を実施し、外部の専門家と連携を図り、専門的な知見から事業に対する助言をもらい、充実を図っている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 外部の専門家とのより強い連携による事業内容のさらなる充実を図ること。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ネット依存傾向のある児童生徒が増加傾向にあることから、事業の必要性は高く、今後も継続実施するとともに、実施後のアンケート結果等から事業の有効性を確認し、プログラム内容や実施方法の更なる向上を目指す。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	

